

SIIF

Social Innovation
and Investment Foundation

社会変革推進財団

SIIFが捉える、世界の「システムチェンジ投資」

作成：一般財団法人社会変革推進財団（SIIF）インパクト・エコノミー・ラボ
最終更新：2024年7月1日

本資料は、日本でシステムチェンジ投資の実践と研究に取り組むSIIFの目線から、「世界のシステムチェンジ投資の潮流と実例」、およびその前提の「システム・チェンジ」の考え方を概説するものです。



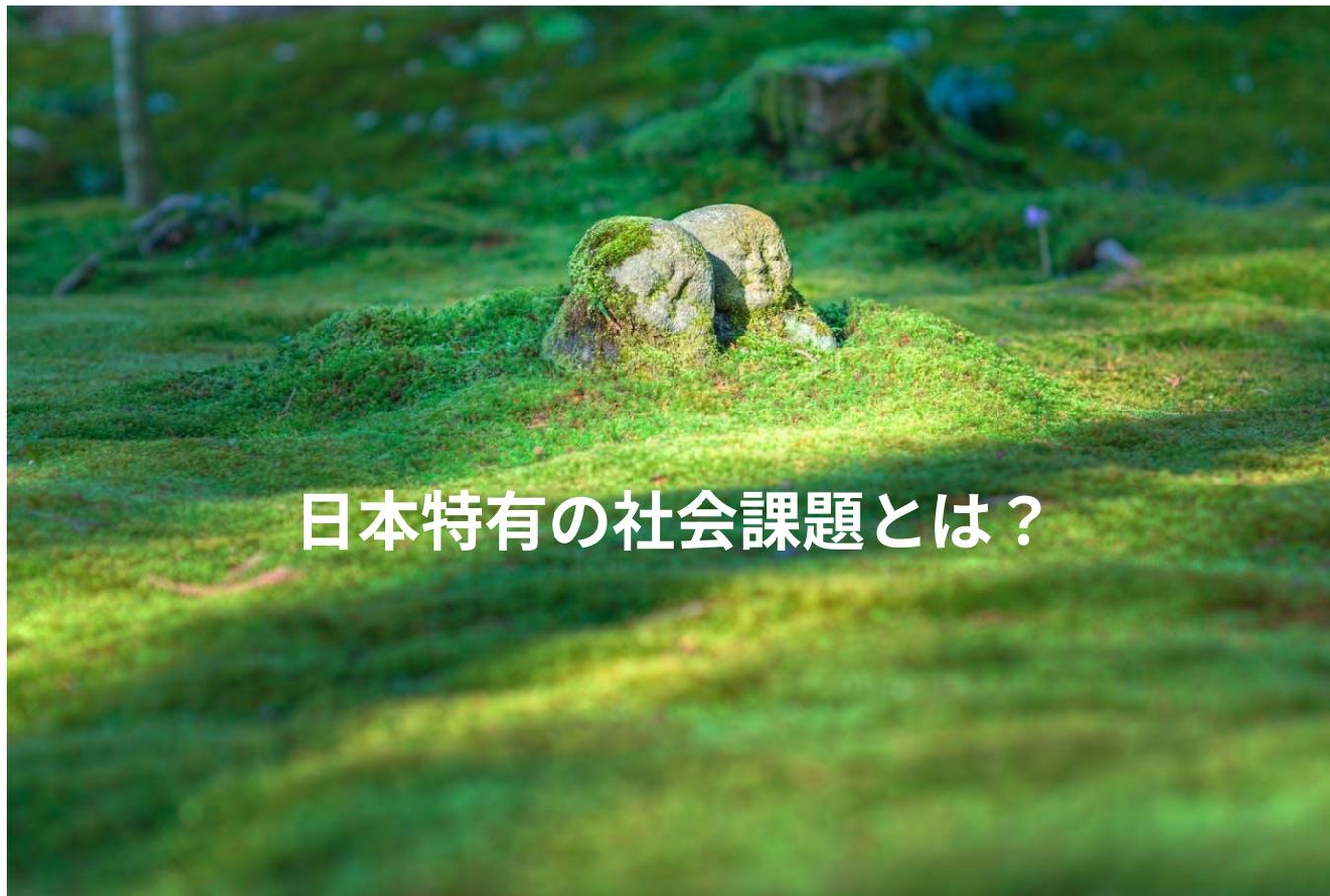
- 日本における複雑な社会課題とは？
- システムチェンジとは何か？
- システムチェンジ投資とは何か？

投資は、複雑な社会課題を解決しうるか？

- Can investment solve complex problems of the people and the planet? -



- 日本における複雑な社会課題とは？
- システムチェンジとは何か？
- システムチェンジ投資とは何か？



地方の人口減少に起因する公共サービス、地域コミュニティの脆弱化



写真：英国ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスの学内に掲示されていた世界の人口動態に関するインフォグラフィック。作成者が2023年に撮影。

- 人口減少に起因する税収減により、地域社会の基盤となる**公共サービス**の破綻、少なくともその質・量へのネガティブな影響が懸念される。
- 2050年には40%の市町村で、**労働人口が50%に減少**するとの予測（2020年レベルとの比較）。
（出典：[国立社会保障・人口問題研究所, 2023](#)）

高齢化による介護費用や孤立の増加

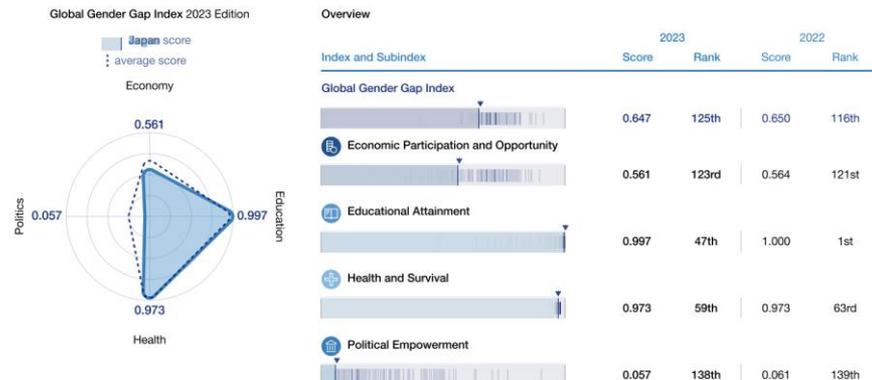


写真：PexelsのVlad Cheţan氏の作品を引用。

- 2012年、内閣府は高齢社会白書のなかで「**高齢者の孤立（社会的孤立、孤独死）**」を社会課題として認識。
- 2040年、高齢化の影響で**介護費用が2.6倍**になると推計されている（2020年比較）。

出典：内閣府 高齢社会白書 ([2012](#) and [2022](#))

機会の格差（例：ジェンダーや教育など）



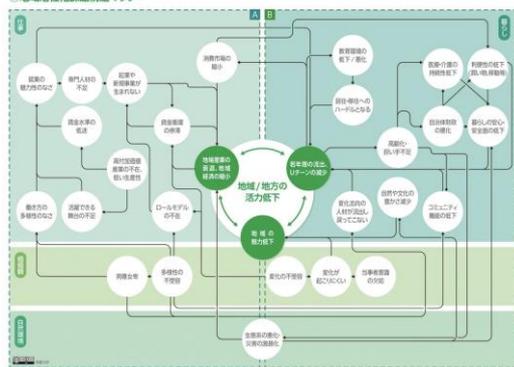
- 世界経済フォーラムのグローバル・ジェンダーギャップレポート（2023）によると、日本のジェンダーギャップ指数は146ヶ国のうち125位。

出典: World Economic Forum (2023) [Global Gender Gap Report 2023](#)

日本で顕在化している以下のような社会課題は、多数の要因や主体の相互作用、
更には国や地域、個人の文化や価値観も影響しうる「複雑な課題」。

地域活性化

① 地域活性化課題構造マップ



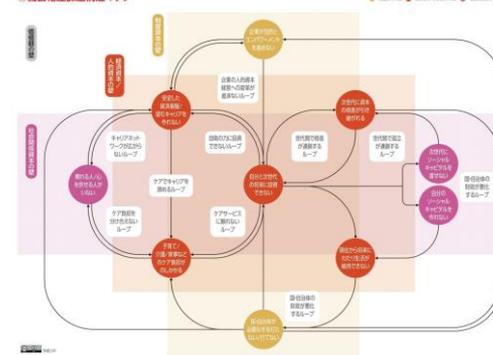
ヘルスケア

①ヘルスケア課題構造マップ—患者



機会格差

① 機会格差課題構造マップ



出典: SIIF(2023) ビジョンペーパー [【地域活性化】](#) [【ヘルスケア】](#) [【機会格差】](#)

複雑な課題は、解決可能なのか？
- Are complex problems solvable? -

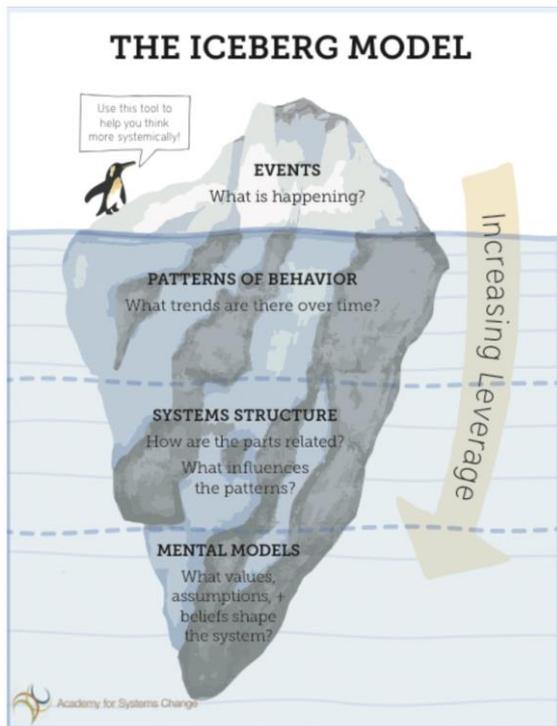


- 日本における複雑な社会課題とは？
- システムチェンジとは何か？
- システムチェンジ投資とは何か？

システム・チェンジとは何か？

- What is systems change? -

社会・環境システムの機能や構造に働きかけ、複雑な課題を根本的に解決すること。



出典：システム思考の冰山モデル「[Systems Thinking Resources THE ICEBERG MODEL](#)」(The Academy for Systems Change) より引用。

ダイレクトサービス
- 現場に直接介入する、奉仕的活動

大規模なダイレクトサービス
- ダイレクトサービスの規模が拡大し、
広範囲で展開されているもの

システム・チェンジ
- 問題を生み出す根本的な原因に働きかけること（革新的手法の大規模展開や政策の
変革、多様な主体の協働等による）。

フレームワーク・チェンジ
- システムチェンジにより仕組みと基準が
変わった後、より大きな意識と行動の変革
が起きること。

顕在化した
課題の原因
に対処

潜在的な
真因へ
働きかけ

参照・出典: Ashokaの「4 levels of impact」を参照しSIIFにて作成。
<https://www.ashoka.org/ja-jp/story/4-levels-impact>

世界にみる、システムチェンジの成果事例（現時点で具体性が確認できるもの）

BBC

Home News Sport Business Innovation Culture Travel Earth Video Live

Ozone layer may be restored in decades, UN report says

10 January 2023

By Phelan Chatterjee, BBC News

Share



出典: Ashoka [Four levels of impact](#); BBC(2023) [Ozone layer may be restored in decades, UN report says](#)

- 政策の変革によるもの
 - オゾン層回復：1987年の国際合意（モントリオール議定書）とその後の有害化学物質の削減により、オゾン層回復に見通しが立ったこと。
- 革新的手法の大規模展開によるもの
 - ウィキペディアによる、インターネット上の情報共有の民主化。
 - マイクロクレジットが、低所得層が金融を利用して貧困から抜け出す選択肢となったこと。
- その他、途中成果レベルの事例も含めて調査を継続中。

システムチェンジに取り組む時、重要なのは「3つの課題」を理解すること。

単純な課題 (Simple problem)

- ケーキを焼く
- 自動車を運転する
- 乳児用ミルクを買う

煩雑な課題 (Complicated problem)

- レシピ集を作る
- 自動車の組み立て
- 乳児用ミルクの調乳

複雑な課題 (Complex problem)

- 調理師の教育
- 安全な交通システムをつくる
- 子育てをする

直線的な課題：やり方がわかり、
解決に必要な資源の活用さえ出来れば解決可能な課題。

非線形の課題：異なる
価値観、優先順位を持つ
複数のステークホルダー
の相互作用による複雑性
や文脈に適応する必要。

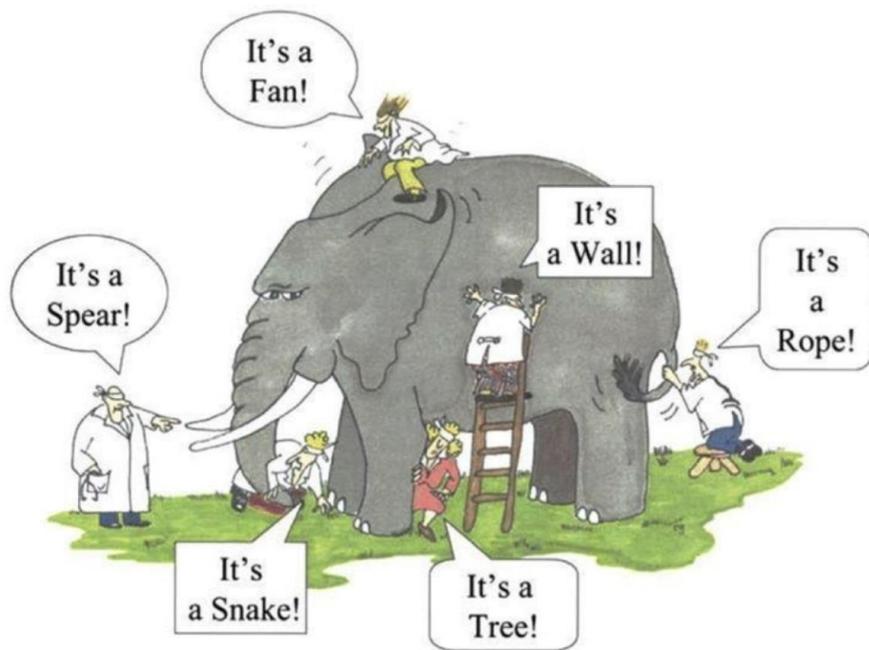
参照・出典: Westley, et al. (2009) [Getting to maybe: How the world is changed](#). を参考に、SIIFにて実例・説明を追加し図示化。

これまでのインパクト投資は、複雑な課題を解決できるか？
- Can conventional impact investing solve complex problems? -



- 日本における複雑な社会課題とは？
- システムチェンジとは何か？
- システムチェンジ投資とは何か？

システムチェンジ投資における考え方の転換：線型思考からシステム思考へ



- 寓話「群盲象を評す」の教訓から、投資家が学べること
 - 私たちは、複雑で広大なシステムのごく一部しか知らない
 - 私たちは、それぞれの価値観や基準、持っている情報に基づいて判断をしているにすぎない
 - 私たちはシステムについて「何を知らないか」を知らない

画像: Government of UK(2020) [When it comes to solving complex problems, collaborating isn't enough](#) より引用。

インパクト投資のメリットと限界：“シングルアセット・パラダイム”

Impact Investing

Systemic Investing for Social Change

To move beyond single-point solutionism, impact investing must use financial capital as both resource and connective tissue.

CITE SHARE COMMENT PRINT ORDER REPRINTS

By Jess Dagers, Alex Hannant & Jason Jay | Dec. 12, 2023

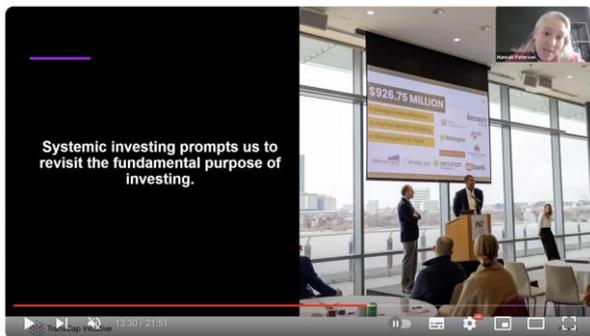


(Photo by iStock/hidesy)

- インパクト投資に出来ること
 - 個社への投資案件において、**財務リターンとインパクト両方の拡大に貢献すること。**
- インパクト投資の限界
 - 社会に**構造的な変化**をもたらすこと。
 - システムの**本質的な変化**に対する、シードマネーの提供などの資源投入。
- 社会を良くする意図を持つ取り組みが**新たな問題を引き起こす可能性**さえある。それが、様々なセクターが「**システムを捉える視点(systems-lens)**」に注目する理由。

参照: Dagers, et al(2023) [Systemic Investing for Social Change](#).

投資家、大企業にとってのシステムチェンジ投資の重要性



Overview of the Inaugural Systemic Investing Summit 2024



- 欧州を拠点に実体経済のシステムチェンジにむけたシンク・ドゥ・タンクとして活動する「**TransCap Initiative**」は、大企業や投資家にとってシステムチェンジ投資が重要になる理由を以下の通り発信。

- **大企業や多国籍企業：サプライチェーンはますます脆弱になっており、政府、財団、NGOといったパートナーと連携して多様な事業投資を行うことがサプライチェーンの強靱化、事業運営の前提となる社会的信頼性の向上、そしてインパクトの向上につながるため。**

- **機関投資家：ESG投資は社会や地域が求めるスピード感、質、量の観点でニーズを満たせておらず、社会は機関投資家に対してより多くの資金をより実質的なニーズのある生産や購買に振り分けることを求めているため。**

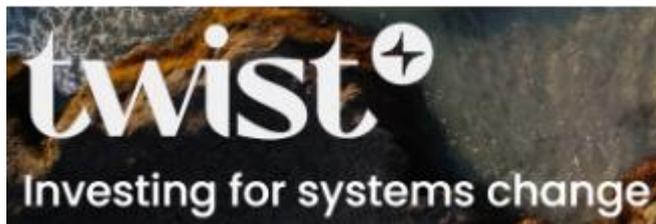
参照: (上)TransCap InitiativeがMITで開催したSystemic Investing Summit2024の様子。画像は[TransCap Initiative公式YouTube](#)より。(当サミットにはSIIFのメンバーも現地参加)
(下)TransCap Initiativeによるシステムチェンジ投資の重要性の提起「[What is systemic investing? An update on definition, key concepts, and relevance.](#)」([Hofstetter, 2023](#))

今、システムチェンジ投資が注目されている理由

気候変動や人権問題などの社会・環境システムレベルのリスクを放置することで、ビジネスの前提となる社会経済そのものが成り立たなくなるリスクが高まる。

加えて、これまでのESG投資やインパクト投資では、個社投資のレベルを超えたところにある「社会課題が生まれる構造的な原因」に対してアプローチしきれない。

世界の「システムチェンジ投資」のムーブメント（一部）

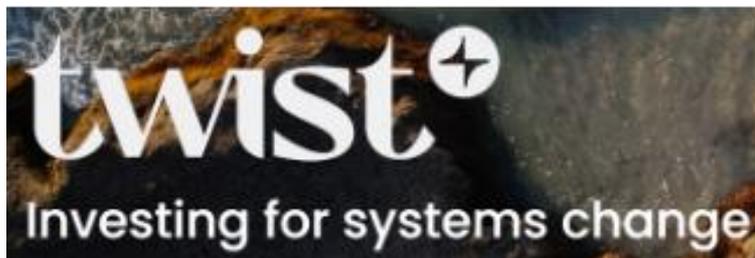
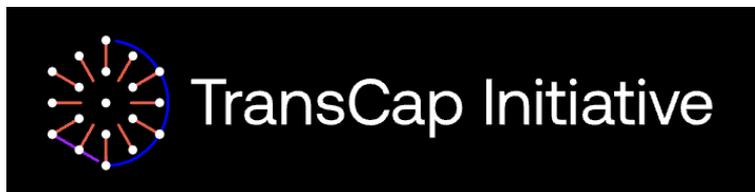


DEEP
TRANSITIONS LAB

- ノルウェーのカタパルト・ファウンデーションを母体とするTWISTはシステムチェンジ投資に関する国際ネットワークとして世界中の実践者と研究者、ファシリテーターをつなぐ。
 - 現在、Better Society Capital、Toniic、MIT Sloan Sustainability Initiativeなど**40以上**の組織が参加（日本からはSIIFも参加）。
- **Deep Transitions Lab(DTL)**はユトレヒト大学&サセックス大学をベースとする領域・セクター横断型リサーチプロジェクトとして、**Baillie Gifford**などの国際的な機関投資家、金融機関と連携したシステムチェンジ志向の投資手法の開発に取り組む。

出典: [Deep Transitions](#); [TWIST](#)

世界の「システムチェンジ投資」の現状定義（Working Definitions、一部）



出典: [TransCap Initiative](#); [TWIST](#); [TIIP](#)

- システムチェンジ投資は、確認できる限り2020年代に生まれた新しい取り組み。そのため世界レベルで合意された定義は存在せず、**先駆的プレイヤーによる現状定義が複数存在する状況**。
- **Systemic Investing**: 社会課題の解決に向けたシステム思考の応用。人類社会と自然システムの変容を意図した、広範なシステムチェンジプログラムとそれに紐づく多様な資本の戦略的提供（TransCap Initiative）。
- **Investing for systems change**: ポジティブなシステムの変化に貢献することを意図した財務的・非財務的な投資や介入（TWIST）。
- **System-level Investing**: 従来的な投資手法と新しい手法の両方を活用し、すべての投資の安定的で柔軟な土台をつくるべく、社会、環境、金融システム上のリスクとリターンを管理すること（TIIP、世界初の社会・環境配慮型インデックス投資ファンドの設立者スティーブ・リンデンバーグらが2015年に立ち上げたコンサルティングファーム）。

システムチェンジ投資は、複雑な課題を解決しうるか？

- Can systems change investing solve complex problems? -

トリオドス銀行によるオランダの再生可能エネルギーへの移行支援

Case study:

人と地球のための
金融機関
「Triodos Bank」



Triodos Bankのリーダーシップから、
日本が学べる2つのポイント

POINT
1

生物多様性や土壌を回復させる
「再生型」の経済システム



POINT
2

他の金融機関や政策の動きを変える
リーダーシップ



SIIF Social Innovation and Investment Foundation

- トリオドス銀行は以下の取り組みによりオランダ全国レベルでの再生可能エネルギーへの移行を促進
 - **先駆的資金提供**：1980年代にオランダ初となる風力発電事業への資金提供
 - **実証と市場形成**：1990年代の風力発電向けファンド組成など、他の金融機関が再生可能エネルギー市場に参入できる道をつくる
 - **政策提言**：オランダ政府に対するサステナブル投資の税制優遇政策の提案

結果、オランダで1986年にわずか1.37%であった化石燃料以外による発電比率は、2021年には12%まで成長。

ReFEDによる、全米のフードロス削減にむけた取り組み

Case study:
全米のフードロス
削減に取り組む
非営利組織
「ReFED」



- アメリカの非営利団体ReFEDは、2030年までに全米のフードロスの50%削減（システムチェンジ）を目指し、「課題を解決する仕組みと状況をつくる」中間支援団体として以下の活動を展開。
 - **科学的データの提供**：フードロスを引き起こす需要と供給、そしてサプライチェーンの問題についてのリサーチやソリューションのデータベースの運営。
 - **資金の提供**：フードロス削減に貢献するサービス提供者に対する資金、インキュベーションプログラムの提供。

ReFEDのシステムチェンジの事例 3つの注目ポイント

POINT
1

課題を解決する
仕組みと状況をつくる



POINT
2

「データ」と「資金」
提供に注力



POINT
3

経営者の
フィランソピーが起点



SIIF Social Innovation and Investment Foundation

ワシントン州やGoogle社の社員食堂のフードロス削減計画立案と実行にReFEDのデータベースが活用される等、州政府や国際企業の行動変容を促している。

英国ブリストル市のPlace-Based Impact Investing（地域協働型インパクト投資）

Case study:
地域協働型の
インパクト投資
「Bristol City
Funds」



- 英国ブリストル市は、市の住民・事業者・公共団体などの対話がきっかけで2019年に市と民間企業が連携してBristol City Fundsを設立。
- ファンドの取り組む課題、目指すリターン：ブリストル市の2050年ビジョン「公正で健康、持続的な希望溢れる街となり住民全体が成功を分かち合う」の実現を目指す投融資、助成の実施。投資目標はリスク調整後の内部収益率（IRR）4%。

「Bristol City Funds」と 「地域協働型インパクト投資（PBII）」の特徴



SIIF Social Innovation and Investment Foundation

※本件は2019年開始のためシステムレベルの成果についての評価がまだ難しい事例です。しかしながら、投資の範囲（バウンダリー）をブリストル市に絞り、街のビジョンやニーズと具体的な投資テーマを連動させる点等において、地方自治体レベルのシステムチェンジに貢献しうる好事例と考え、ご紹介しております。

出典: SIIF(2024) [地域特化のシステムチェンジ投資の可能性、Place-Based Impact Investing](#)

アメリカ・MITで行われたシステムチェンジ投資事例の比較研究(Yau,2024)が明らかにしたシステムチェンジ投資家のゴール設定、システム理解、役割（メンタル・モデル）の多様性

システムチェンジ投資家のゴール

- ①**System optimization**：社会的、技術的なシステムを変えずに既存の取り組みを継続的に改善してイノベーションを起こすこと。
- ②**Partial system redesign**：既存システムの特定領域を変えるテクノロジーやビジネスによって破壊的なイノベーションを起こすこと。
- ③**System transformation**：テクノロジー、業界構造、政策、生活者の習慣といった現実を根本から再構成し、変えること。

システムチェンジ投資家のシステム理解・認識

- ①**バリューチェーン**：例えば物流などのプロセスへの着目
- ②**因果関係**：システムにおける要素間の因果関係やフィードバックループ
- ③**ステークホルダーの関係性**：システムにおけるステークホルダーの関係、権力構造
- ④**パラダイムと価値観**：現在のシステムの根底にある規範や価値観

システムチェンジ投資家の役割・メンタルモデル

- ①**スーパースター・ソリューションの拡大**
- ②**法やルールを変えるエビデンスづくり**
- ③**ステークホルダーの協力関係やエコシステムの醸成**
- ④**イノベーターの苗床の運営**

日本におけるSIIFの取り組み：2022年にシステムチェンジ投資の実践と研究を開始。

SIIFによるシステムチェンジ投資の 現状定義 (Working Definition) とは？



①②③を積み重ね、新たな価値を生むシステムへの変容を促す行為

SIIF Social Innovation and Investment Foundation

- 2017年の設立以降、SIIFは日本におけるインパクト投資の火付け役を担ってきた。
- 2022年、これまでのインパクト投資の実践・知見開発を土台として、法人の事業戦略を「システムチェンジ」へとシフト。
- 以降、Systems Change Collective事業（地域活性化・機会格差におけるシステムチェンジ投資）とSIIFIC ウェルネスファンド設立を通じたシステムチェンジ投資の実践と、インパクト・エコノミー・ラボを通じた研究開発を推進中。

[SIIFによるシステムチェンジ投資の現状定義 (Working Definition)]

社会・環境の課題を根本的・構造的に解決する「意志」と、解像度高くシステムを俯瞰しつつ課題の真因を探究する「学習」により、資金提供に留まらない課題解決に必要な「多様なアプローチ」を結集させて新たな価値を生むシステムへの変容を促す行為。

システムチェンジ・ライブラリ powered by SIIFのご紹介

システムチェンジ・ライブラリ
powered by SIIF

SIIFが捉える、
世界の
「システムチェンジ
投資」



- SIIF（社会変革推進財団）のインパクト・エコノミー・ラボが運営する、世界の「システムチェンジ」を志向する投資・課題解決の先行的事例や実践知のコレクション。
- SIIFが行うシステムチェンジ投資事業の実践や国内外の調査研究から得られた気づきや知見をもとに、社会の当たり前を変えるための新しいお金の流れや、多様なステークホルダーが協力してつくる事業を生み出すヒントを発信。

参照：SIIF(2024) [システムチェンジ・ライブラリ powered by SIIF](#)

SIIFでは、日本におけるシステムチェンジ（社会課題の本質的・構造的解決）を進めるため、自社でのシステムチェンジ投資事業に限らず、多様なステークホルダーとの協働やシステムチェンジに関する取り組みの側面支援を行っております。



【システムチェンジに関する協働のイメージ（例）】

- **企業・団体のリーダーの皆様；**
システムチェンジ（投資）に関する取り組みを始めた
い、あるいは既に開始されている皆様との意見交換等
- **カンファレンス等主催者、メディア等の皆様；**
システムチェンジ（投資）に関する登壇、寄稿、取材
等
- **金融機関の皆様；**
システムチェンジ投資アドバイザー支援等

上記の例に限らず、当財団がお力になれる可能性がございましたら、お気軽にご連絡下さい。

担当：SIIF インパクト・エコノミー・ラボ
lab@siif.or.jp